入選

親切は難しい

北海道　光陵中学校　三年
藤田　わかば

夏休みに、私は自転車に乗って、仲の良い友達と遊びに行きました。お店の中でゲームをしたりして遊び、久しぶりに楽しい時間を過ごしました。そろそろ帰ろうか、とお店の外に出てみると、停めてあった自転車が、まるでドミノのように倒れていました。

私が「うわぁ」と思っていると、友達はすぐに自転車を立て直し始めました。私も、順番に自転車を立てていきました。

一通り直し終わると、友達が「あっ」と声をあげました。

「ペダルが絡まって、動かない。」

2 台の自転車は、簡単には直せなさそうな絡まり方をしていました。私たちは、自転車を引っ張ってみたり、押してみたり、持ち上げてみたりと、いろいろ試しましたが、現状は変わりませんでした。

しかも、絡まってしまったのは友達の自転車だったので、このままでは帰れない、と焦りました。そして、もう一台の自転車の持ち主も、きっとこのままにしておくと困るだろうな、としばらくの間、私たちはその自転車と格闘していましたが、私はあることに気づきました。

そのお店は、この辺では大きな店舗だったので、人も多く集まります。でも、何人かが私たちの後ろを通っても、チラリとこちらを見るだけで、声をかけてはくれないことに。さらに、私たちが直した自転車にまたがり、そのまま走り去ってしまった人もいました。

私は思いました。「まじか」と。結局、二人でなんとか自転車同士を引き離すことができ、帰路につくことができました。私たちは良いことをしたはずが、なんだか心がモヤッとしたままでした。どうして声をかけてくれなかったんだろう、どうして見て見ぬふりをしたんだろう、と。

ましてや子供の私たちが当たり前のようにしたことを、どうして大人はできないのだろう、と私は強く思いました。私たちがすぐに自転車を立て直したように、困り果てていた私たちに、

「大丈夫ですか？」

と声をかけることは、そんなに難しくて、恥ずかしいことだったんでしょうか？小さな親切って、そんなに難しいんでしょうか？友達も同じことを思っていたようで、

「誰も助けてくれなかったよね。」

と、二人で話しました。

私はこの経験を通し、みんながみんな、何気ない親切ができるわけではないんだな、と思いました。私の友達は、率先して自転車を直そうとし、愚痴（ぐち）一つこぼさない、とても優しい人だと思いました。私は、どんなときでも、そんな友達のようにありたい、と思いました。

そして、岩見沢市民みんながその友達のようになってほしいな、と思いました。